

平成 29 年 10 月 14 日

南の風 249

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

マンツーマンディフェンスについてです。

U-15に『マンツーマンディフェンス推奨』が謳われ、「マンツーマンディフェンスの基準規則」が正式に採用されてから約1年半が経ちます。南の風でも取り上げてきましたが、各方面からいろいろな意見が聞こえてきます。～ 以下、小中高指導者交流会参加者の意見 ～

《高校の指導者の意見》

- ・マンツーマンディフェンスは基本の守り方なのだから、中学までしっかり取り組んでもらえることはありがたい。
- ・ボールマンディフェンスに積極的な選手が増えている。
- ・ゾーンの経験がないので、戦略的に『ゾーンディフェンス』を指導するのに時間が掛かる。
- ・ゾーンアタックの指導が高校からでは遅く、対応力が身に付かない気がする。

《中学の指導者の意見》

- ・指導時間が短い中、ゾーンディフェンスを指導したり、ゾーンアタックを考えたりしなくてよいので助かる。
- ・1対1の力（攻守とも）が伸びるのでよい。
- ・2線、3線の位置取りが初心者には難しく、選手も指導者も戸惑っている。

《ミニバスの指導者》

- ・マンツーマンディフェンスの大切さが実感できている。
- ・1人ひとりの攻めや守りのスキルは向上している。正しいフットワークやステップが身に付くようになった。
- ・ペイントに引いたゾーンディフェンスは良くないが、ゾーンプレスは良いのでは。積極的に仕掛けるディフェンスなのだから。マンツーマンプレスとの見分け方が難しいのではないか。

以上、代表的な意見を書きました。

私の考えです。マンツーマンディフェンスが基本的な守りであり、『ゾーン禁止』が目的なのではなく、今後日本が世界と伍していくためには、育成年代から1対1の力量を伸ばしていかなければならない、という戦略的な考えには賛成です。また、マンツーマンディフェンスの基準規則に則って指導するという方向も理解できます。しかし、トップダウンで『ゾーンディフェンスは禁止、マンツーマンディフェンスに限ります。』と規制することには反対です。なぜなら、バスケットボール（他の集団スポーツもそうですが）は発祥以来、あらゆるカテゴリーの諸先輩方が、発展に寄与（戦略、戦術に知恵を絞った）したからこそ今日があるのです。ミニバス、中学は育成年代とはいえ、戦略や戦術は自由な発想の中で進歩、発展するものだと思えます。特にミニバスでは、バスケットボールIQを育てる年代です。常に9+1+B+Gを視野に入れプレイし、状況判断力を育てることこそ大事です。自由な発想の中でこそ、選手は思い切ったプレイができるのではないのでしょうか。